

事業所における自己評価結果 (公表)

公表:令和6年5月15日

事業所名 児童デイサービスくろーばー

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	11	0	0		
	②	職員の配置数は適切である	2	9	0	・専門職の配置がある ・急な休みなどもあるので、その日は安全面に配慮し活動を変えている ・日によって変わる ・日による(2)	・より細やかな支援を行うために職員を増やしていく
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	10	1	0	・トイレ等の手すり	
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	10	1	0	・毎週ミーティングでの確認がある ・支援ノートの活用、ミーティングで情報共有	
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	11	0	0	できるところから取り組んでいる	
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	11	0	0		
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	0	11		・第三者による外部評価を計画している
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	11	0	0	事業所内研修を月1~2回以上実施	
適切な 支援の 提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	11	0	0	・Vinelandを導入し利用児童に順次適用している	・利用児童全員をVinelandで分析は行っていないので、増やしていく
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	10	0	1	・JSI-miniやVineland-IIを取り入れている ・Vinelandを導入したが使いこなせていない ・JSI-miniは活用しているが展開はまだ。今後活用していく	
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っている	9	2	0	・他の職員からアドバイスをもらうこともある	
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	10	1	0		
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	8	3	0	・きめ細やかにできていないが休日や長期休暇の時にできる活動を設定している	
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	10	1	0		
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の内容や役割分担について確認している	11	0	0		
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	10	1	0	・翌日のミーティングで行っている ・翌日行っている ・全員での共有は翌日の朝礼になるが、常勤での共有は支援終了後に行うことが出来ている	
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	11	0	0		
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	11	0	0		
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	8	3	0	・よくわからない	ガイドラインの内容理解と実施支援内容のすり合わせを確認していく
	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	11	0	0		

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	11	0	0	送迎に行った職員が他の職員へ共有することができる	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0	0	11	・医ケア児を受け入れる予定なし(4) ・受け入れていない(2)	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	0	1	10	情報交換の声掛けを行っている	今後も、声掛けを行っていく
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	2	0	9	・情報提供/共有を求められたら実施している(移行先に応じて) ・求められた場合は対応している ・要求があれば対応する形を取っている。相談員さんとも共有済み。	今後も、声掛けを行っていく
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	0	2	9	肢体不自由児や知的障害メインの研修開催があれば参加	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	1	1	9		開催を企画する
	27	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加している	9	2	0	年1回開催に参加している	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	11	0	0		
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	0	10	ペアレントトレーニング自体は実施していないが、自治体等での開催があれば案内している	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9	2	0		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	10	1	0		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	11	0	0	・月1回のユツタ会で顔合わせを行っている ・ユツタ会 ・ファミリー会	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	10	1	0	苦情ではないが児童に合わせて車のエアコンを早めにつけるなど対応することが出来ている	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	11	0	0	・くろーば一便りやSNSで発信している ・月1でくろーば一便りを配布している	
	35	個人情報に十分注意している	11	0	0		
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	11	0	0		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	0	11		
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	11	0	0	各マニュアルのシュミレーションを行っている。防犯マニュアルで警察署と連携し防犯訓練を行った。	今後も定期的開催していく
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	11	0	0	火災、地震津波等災害の避難訓練を定期的に行っている	今後も定期的開催していく
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	11	0	0	虐待防止、身体拘束、意思決定支援をセットで考え研修を行っている	今後も定期的開催していく

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の 対応	④1	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	10	1	0		
	④2	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	1	0	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食物アレルギーのある子はいない(3)</li> <li>・対象の児童がいない(2)</li> </ul>	
	④3	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	5	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文書で作成していないが、記録や口頭での情報共有は行っている</li> <li>・口頭で共有している(2)</li> <li>・文章で作成していないが口頭で共有(2)</li> <li>・ヒヤリハットの基準が明確じゃない。ケガ等でも記録していくべきなのか。</li> <li>・誰が作成するのか(目撃者がいない時は?)</li> <li>文章にはしていないが口頭で共有している</li> </ul>	

この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。